



Illustration/Mariko Tanaka

ちろんのこと、ほかにも疾患があり薬を飲んでいる方、薬の摂取が制限される妊婦さんや授乳中の方にも安全です。

お子さんにも、もっと受けてほしい治療です。子どもに強い薬は使えません。でも、子どもは鼻やのどの粘膜が弱く、鼻の中も狭いため症状が強いです。またお子さんが長期間薬を使い続けるのが心配という場合は、レーザー治療を考えられてもいいかと思えます。実際、小学校一年生くらいでレーザー治療を受けている子どももたくさんいます。入院の必要がないので忙しい方にもいいと思います。ただ、鼻の処置ができないほど痛みに敏感な方や、神経質な方には向きません。

治療は、まず麻酔液のついた綿を鼻に入れる塗布麻酔を20〜30分行います。レーザー照射は片側約5分、術後も入浴や食事など日常生活での制限はありません。術後2〜3日は一時的にくしゃみや鼻水、鼻づまりがひどくなったり、かさぶたができたりしますが、1週間ほどで改善します。

当院の花粉症の患者さんの2〜3割は、毎年レーザー治療をしています。リビート率が高い

ということ、それだけ効果を実感できるということだと思えます。スギ花粉にお悩みの方は予防として、前年の秋、年の暮れ、年始めというように1〜1カ月半おきに3回、シーズン前にレーザー治療を受けると症状はだいぶ違います。

今のところの最新治療は、レーザーですか？

レーザー治療で鼻づまりが解消しなかった人には、高周波電気を用いた新しい治療法として「ラジオ波凝固治療」があります。レーザー手術とほとんど同じやり方で受けられます。

また、花粉症の根治療法に、「減感作療法」という免疫療法があります。抗原となる花粉エキスを注射して免疫を作っていく治療ですが、注射を打ちに2年ほど通院しなければならず、患者さんには負担が大きいものでした。

そこで注射を使わずに、舌下から花粉エキスを投与する「舌下減感作療法」の研究が進められています。スギ花粉症に対する抗原を含んだグミ剤を舌下に置くだけで、自宅で行えるため通院の手間もなく、注射の痛み

もないため、今後の研究成果が期待されています。

今年の花粉飛散量の予測は？

今年、例年よりやや少ないと予想されています。しかし花粉が極端に多かった昨年、症状が重かった人や初めて花粉症を発症した人は、体が抗体をたくさん作る準備をしまっています。健康で免疫力が旺盛な人ほど、抗体を作る力が強いので、花粉が少ない年でも症状がひどくなる可能性があります。逆に、あれだけ飛散量の多い年に軽くすんだ人は、今年はそれほどひどくならないかもしれません。

花粉症の症状の程度は、本人もまったく予測がつかないところがあります。アレルギーは遺伝子レベルの疾患であって、どのような最新医療機器を用いても完治することはありません。基本的には、すべて症状をどう薬にしてあげるかという治療です。症状の程度やライフスタイルにあわせて、健康食品や薬、レーザー治療など複数の選択肢の中から、自分に合ったものを見つけていくことが大事です。